

千年の森便り No.246

2024.6.25

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

6月16日（日）天候 曇り

天気予報は直前まで雨の予報でしたが、実際には朝まで雨が降っていたものの活動時間中は曇りとなり、雨に降られることなく活動を行うことができました。活動内容は、駐車場としてお借りしている場所の草刈り、その後にシカの生息状況調査、ボートを使った湖からの植物調査、センサーカメラのデータ回収、危険木（ナラ枯れ枯死木）伐採などを行いました。参加者は、天気予報と作業の中心が草刈りだったためか5人と少なく、伊藤、鶴沢、苅米、坂本、福島の数少精鋭での活動となりました。

次回は、臨時活動として7月7日（日）にちば里山センターとの共催でナラ枯れ枯死木伐採研修会を予定しています。定例活動は、7月15日（月祝）に公開行事として吹春先生をお招きして夏のキノコ観察会を開催します。ご参加をよろしく申し上げます。（福島）



誰が何と言おうと数少精鋭！！！！

○進入路、駐車場の草刈り

通常は二ホンジカの生息状況調査から活動をスタートしていますが、今回は苅米さんが一足先に入り駐車場の草刈りを進めていただいていたので、全員で草刈りから作業を始めました。苅米さんは、アームの長い自走式の草刈り機を使って他の4人が到着する前に駐車場の草刈りをほぼ終わらせてくれたので、進入路を中心に1時間程度草刈りを行いました。苅米さん、早くから作業を進めていただきありがとうございました。（福島）



○二ホンジカ生息状況調査

全員で草刈りを行ったあと、吊り橋を渡って島に入り3か月に1回実施している二ホンジカ生息状況調査を行いました。いつもは7人が7コースに別れて島内を一斉に踏査していますが、今回は人数が少ないため1、2、4、5、6&7の5コースに別れて踏査を行いました。踏査時間は11時から約30分間でした。二ホンジカ、その他の動物も含めて、姿、声、足音などの確認はありませんでした。最近、センサーカメラに二ホンジカの記録が少なくなっており、その反面、キョンやイノシシの記録が増えてきているように思います。何が原因かはわかりませんが、動物の生息状況が以前とは違って来たように感じます。（福島）



2コースを踏査中の坂本さん

○タヌキのためフン（溜め糞）

吊り橋の上に直径 40 cm くらいのフンの山が 3 つできていました。タヌキがこの吊り橋をよく利用していることはセンサーカメラの調査で分かっているので、これはタヌキのためフンで間違いなさそうです。このままの状況だと更に山盛りになっていく可能性があります。タヌキさん、吊り橋は私たちも通るので、できればためフンは別の場所をお願いしたいんですが・・・（福島）



○ヘビの記録

伊藤さんが二ホンシカ生息状況調査の途中でアオダイショウを目撃しました。

○ボートでのアワチドリ調査

アワチドリ（安房千鳥）は草丈が 10~20 cm の小型の野生蘭です。かつて房総丘陵では尾根筋の赤松の根元や切通しの岩肌に生えていて、村民に注目されるものではありませんでした。

昭和 40 年代に山野草ブームがあり、園芸目的で乱獲されたので、今では絶滅危惧種です。手の届く所は取り尽くされても豊英島周囲の断崖なら簡単に近づけないので生き残りの株があるかと思って、ボートを使って湖面から探して見ることにしました。今は開花期なので運が良ければ小さな紫色の花が目印になる筈です。

約一時間かけて島を一周しましたが、簡単に発見とは成りませんでした。調査時間が不足していたのとヘラブナ釣りのボートが陣取っていて近づけない所もありましたから、釣り人の少ない平日に再度挑戦の価値はあると思います。アワチドリは無かったものの、キヨスミギボウシが花盛りで見事でした。湖面から見上げる断崖絶壁の風景は迫力がありました。（坂本）



ウラジロ



キヨスミギボウシ



コモチシダ



湖面から見上げた断崖絶壁

○シャクジョウソウ

シカ調査では 2 コースを担当しました。歩き始めて間もなく足元にシャクジョウソウの株を発見しました。株は大小二つで、それぞれ 10 本以上の茎が立っていましたから、栄養状態の良い大株です。他にも単独で出ている株がありましたが、どの株もまだ咲き始めで背が低く、名前の由来となっている杖の印象はありませんでした。

シャクジョウソウは、ツツジ科シャクジョウソウ属の菌従属栄養植物です。姿が錫杖に似ていることが名前の由来になっている多年草です。背丈は高く 15cm ほど、鱗片葉は光合成をしなくなって退化した葉であり、龍や鳥の鱗や羽に見えます。花は 1 つの茎に 1 個から多くて 8 個つけます。

それでは錫杖とは何でしょうか。僧侶・修験者が持ち歩くつえ。頭部は塔婆形で数個の環がかけてあり、振ったり地面を強く突いたりして鳴らします。音の役割は山中であれば動物除け、街中であればお布施や供物を貰う為だそうです。頭部の塔婆形は修行中の行倒れも覚悟の上との決意を表しているそうです。（坂本）



シャクジョウソウ



錫杖

(https://www.butsudanya.co.jp/shop_butsugu_mikkyou2.html)

〇6月の豊英島



テイカズラ



アカマガシワ



ウチワタケの仲間



ヒロタケ? シュ(イロ)タケ



テングタケの仲間



オオスズメバチ



豊英湖



アセビ



シャクジョウソウ撮影会



ニホンジカ生息状況調査



センサーカメラ(CAM3)



森の中でランチタイム

〇センサーカメラの動物たち

CAM1、CAM2 で記録が多く、特にキョンは2つのカメラでそれぞれ29日間のうち18日と高い頻度で記録されていました。ほかに記録が2日以上あったのは、アライグマ、タヌキ、ハクビシン、アナグマ、カケスでした。CAM3の記録は、キョンとニホンザルが各1日でした。ニホンザルは3つのカメラとも5月24日に記録があり、CAM1では5頭以上、CAM2では10頭以上が同時に記録されていました。同時に記録された最大頭数は、ニホンザル以外ではキョン、タヌキ、カケスが2頭(羽)でした。キョンは、成獣のオス、メスと幼獣が記録されていました。ニホンジカは、前回に続いて記録がありませんでした。(福島)

- 設置期間：5月19日～6月16日(29日間)
- 設置場所：CAM1(つり橋着岸点付近)、CAM2(ホテイ岬への分岐点付近)、CAM3(ホテイ岬先端付近)
- 日数は記録された日数で、同じ日に複数回記録されても1日としています。

CAM1 キョン18日、アライグマ5日、タヌキ5日、ハクビシン3日、アナグマ2日、カケス2日、ニホンザル1日(5頭以上)

CAM2 キョン18日、アライグマ3日、イノシシ1日、ハクビシン1日、ニホンザル1日(10頭以上)

CAM3 キョン1日、ニホンザル1日



キョン(オス)



キョン(メス、幼獣)



アナグマ



アライグマ

お知らせ

○臨時活動「ナラ枯れ枯死木伐採研修会」

7月7日（日）にちば里山センターと共催で「ナラ枯れ枯死木伐採研修会」を開催します。研修会では、ナラ枯れで枯死したコナラを安全に伐採する作業の見学を行います。定員は10名です。申し込み方法など詳しい内容はホームページをご覧ください。

午前10時に清和県民の森事務所下の駐車場に集合です。参加される方はヘルメットを忘れずに。

○次回の定例活動は7月15日（月祝）です。

公開行事として夏のきのご観察会を行います。集合時間は9：30（会員は9：20）、集合場所は清和県民の森事務所下の駐車場になりますのでご注意ください。熱中症対策、ヤマビル・ダニ対策、安全のためヘルメットの着用をお願いします。